

## 第1章 北方領土隣接地域への修学旅行等の誘致の現状把握

### 1-1 調査方法

全国の中学校・高等学校による北方領土隣接地域への修学旅行や研修旅行等の現状について、各種報告書・インターネット<sup>1</sup>等の文献調査、道内関係機関へのヒアリング<sup>2</sup>、及び北方領土隣接地域（根室市、別海町、中標津町、標津町、羅臼町の1市4町：本報告書では以降「北方領土隣接地域」と称す）からの資料提供により、情報収集・分析を行った。

まず、北海道への修学旅行の実施状況について、(財)日本修学旅行協会による『データブック 教育旅行年報』、『教育旅行白書』及び(社)北海道観光振興機構による各種報告書から全国の中学校・高等学校の傾向の把握を行った。インターネットでは、「修学旅行」・「北海道」・「道東」をキーワードに検索を行い、該当する学校の行程を確認し、北方領土隣接地域において修学旅行を実施したことがある学校の情報を収集した。

ヒアリング調査では、北海道内の中学校・高等学校の修学旅行に関する現状把握を行うとともに、北方領土隣接地域への修学旅行の実施状況と今後の可能性について把握した。北方領土隣接1市4町からの提供資料を元に、北方領土隣接地域を訪れたことのある学校のホームページやブログにより具体的な行程を把握し、北方領土隣接地域を訪れる際の行程の特徴について分類を行った。

### 1-2 北海道への修学旅行実施状況

#### (1) 中学校の修学旅行

北海道は、高等学校の主要な修学旅行先（沖縄に次ぐ2位）となっている一方で、中学校の修学旅行先としては全体の4～5%と主流な旅行先ではない。

全国中学校の修学旅行先は、京都府、東京都、奈良県がトップ3を占めており、2009年度では3地域で全体件数の57.2%を占める。他方で、北海道を行き先とする修学旅行は、2009年度で239校（第8位）だった。

表1 全国の中学校の修学旅行の行き先（件数）

	1位	2位	3位	4位	5位	総件数	備考
2005年度（H17年度）	京都 (452)	奈良 (351)	東京 (297)	千葉 (200)	大阪 (181)	2,343	北海道（12位） （40、1.7%）
2006年度（H18年度）	京都 (806)	東京 (660)	奈良 (415)	沖縄 (319)	大阪 (194)	3,441	北海道（6位） （185、5.4%）
2007年度（H19年度）	京都 (1,001)	東京 (580)	奈良 (393)	沖縄 (389)	大阪 (242)	4,040	北海道（7位） （204、5.0%）
2008年度（H20年度）	京都 (1,408)	東京 (1,097)	奈良 (569)	沖縄 (561)	大阪他 (336)	5,871	北海道（7位） （240、4.1%）
2009年度（H21年度）	京都 (1,758)	東京 (1,337)	奈良 (860)	沖縄 (725)	千葉 (293)	6,913	北海道（8位） （239、3.5%）

出所：「データブック 教育旅行年報」、「教育旅行白書」（(財)日本修学旅行協会）より作成<sup>3</sup>

<sup>1</sup> 特に各学校のHPやblogの閲覧により、各校の修学旅行の行程に関する情報を収集した。

<sup>2</sup> ヒアリングは、北海道教育庁、札幌市教育委員会、社団法人北方領土復帰期成同盟、知床羅臼町観光協会にて行った。

<sup>3</sup> 「データブック 教育旅行年報」、「教育旅行白書」では全国の国立・公立・私立中学校ならびに国立・

239校のうち、北海道の中学校が約半数の120校を占めている。次いで、宮城県と東京都が22校、兵庫県が18校となっている。2006年度から2009年度の傾向としては、北海道内の中学校の割合が減少する一方、道外の中学校の割合が増加している。ただし、後述するように2011年3月11日の東日本大震災の発生により、同年度の北海道の中学校の修学旅行は、東北地方への修学旅行を取りやめ、道内へ回帰する状況が見られている。

表2 北海道を修学旅行の行き先としている中学校の所在地

年度	総数 (件)	1位		2位		3位	
		件 (割合)	件数 (割合)	件数 (割合)	件数 (割合)		
2006年度 (H18年度)	186	北海道	117 (62.90%)	岩手	16 (8.60%)	大阪	13 (6.99%)
2007年度 (H19年度)	204	北海道	147 (72.06%)	東京	14 (6.86%)	兵庫	12 (5.88%)
2008年度 (H20年度)	240	北海道	132 (55.00%)	兵庫	30 (12.50%)	東京	12 (5.00%)
2009年度 (H21年度)	239	北海道	120 (50.21%)	宮城 東京	22 (9.21%) 22 (9.21%)	兵庫	18 (7.53%)

出所:「データブック 教育旅行年報」、「教育旅行白書」(財)日本修学旅行協会より作成

平成22年度のデータをもとに、道内の中学校における修学旅行の行き先を所在地域別に見ると、道東(十勝、オホーツク、釧路、根室)、および道北(上川、留萌、宗谷)の中学校は、道内で修学旅行を実施する事例が多い。一方、札幌周辺地域を中心とした道央および道南では、道内での実施件数は少なく、東北、関東のいずれかの地域への修学旅行が大半を占めている。なお、東北の場合には函館との組み合わせで実施する場合もある。

表3 道内中学校の修学旅行の行き先(平成22年度)

	所在地域	北海道	北海道(函館)・ 東北	東北	関東	関西	不明	計
道南	渡島地域	1		15	3			19
	檜山地域			5				5
道央	胆振地域			24				24
	日高地域		4	1	1			6
	石狩地域	1	2	39	11	2		55
	空知地域		9	6	6		1	22
	後志地域	2	6	8	2			18
道北	上川地域	29	1		1			31
	留萌地域	7						7
	宗谷地域	11						11
道東	十勝地域	11	3		1			15
	オホーツク地域	22						22
	釧路地域	16						16
	根室地域	11						11
	計	111	25	98	25	2	1	262

出所:「道内中学校教育旅行動向調査報告書(概要版)」(社)北海道観光振興機構、2011より作成<sup>4</sup>。

公立・私立高等学校を対象として抽出校に対してアンケート調査を実施し、回答を得た結果について取りまとめているため年度によって回答数は異なる。

<sup>4</sup> 調査対象数676校(道内国公立中学校661校、私立中学校15校)に対するアンケート調査の結果を元

## (2) 高等学校の修学旅行

2004年度～2008年度では、全国の高等学校の修学旅行の行き先は、沖縄県、北海道、京都府がトップ3を占めており、2008年度ではこの3地域で全体件数の56.0%を占める。北海道は全体の約20%弱を占めており、旅行先として沖縄県に次ぐ第2である。なお、過去データによれば1999年度以前は長らく北海道が1位であった。

表4 全国の高等学校の修学旅行の行き先

	1位	2位	3位	4位	5位	総件数
2004年度 (H16年度)	沖縄 (922)	北海道 (810) 20.6%	京都 (408)	東京 (298)	長野 (294)	(3,927)
2005年度 (H17年度)	沖縄 (1,346)	北海道 (1,007) 17.0%	京都 (489)	大阪 (327)	長野 (308)	(5,916)
2006年度 (H18年度)	沖縄 (1,575)	北海道 (1,021) 17.7%	京都 (677)	東京 (428)	大阪 (385)	(5,783)
2007年度 (H19年度)	沖縄 (1,173)	北海道 (894) 20.1%	京都 (428)	東京 (350)	長野 (323)	(4,451)
2008年度 (H20年度)	沖縄 (1,543)	北海道 (946) 17.5%	京都 (541)	東京 (398)	大阪 (335)	(5,406)

※（ ）内は件数

出所：「データブック 教育旅行年報」、「教育旅行白書」（財）日本修学旅行協会より作成。

北海道を修学旅行先としている高等学校は、近畿が最も多く、2004年度から2008年度まで全体の3割以上を占めている。2004年度から2006年度は関東、九州が近畿に次いたが、2007年度以降は中国地方からの訪問件数が関東地を抜き2位となった。道内の主たる訪問先は、道南（函館市）、道央（札幌市、小樽市、ニセコ、ルスツ、洞爺湖等）である。

表5 北海道を修学旅行の行き先としている高等学校の所在地（地域別）

年度	総数 (件)	1位		2位		3位	
		件 (割合)	件数 (割合)	件数 (割合)	件数 (割合)		
2004年度 (H16年度)	810	近畿	249 (30.7%)	関東	166 (20.5%)	九州	117 (14.4%)
2005年度 (H17年度)	1,007	近畿	294 (37.8%)	関東	251 (37.7%)	九州	153 (20.3%)
2006年度 (H18年度)	1,021	近畿	318 (31.1%)	関東	186 (18.2%)	九州	161 (15.8%)
2007年度 (H19年度)	894	近畿	287 (32.1%)	中国	207 (23.2%)	関東	146 (16.3%)
2008年度 (H20年度)	946	近畿	318 (33.6%)	中国	154 (16.3%)	関東	152 (16.1%)

出所：「データブック 教育旅行年報」、「教育旅行白書」（財）日本修学旅行協会より作成。

に集計されたものである（回収数269件、回収率39.8%）。

<sup>5</sup> 高等学校のデータでは都道府県別データが掲載されているのが2006年度と2007年度のみのためここでは地域別データを用いた。都道府県別で所在地データを見ると、2006年度では1位・大阪府122件(12.0%)、2位・兵庫県120件(11.8%)、3位・愛知県51件(5.0%)であった。2007年度では1位・兵庫県131件

### (3) 東日本大震災の影響（2011 年度）

（社）北海道観光振興機構の調査によると、7月までに修学旅行を終了した道内の公立中学校のうち、東北から北海道内地域に変更したと回答した学校は 211 校であった。このうち道東方面で実施した学校は 94 校（44.6%）であった。

例年、札幌市の公立中学校の修学旅行先は、青森、秋田、岩手等で 3 泊 4 日の行程で実施することが多かった。札幌市教育委員会によると、震災前の 2010 年度は市内 98 校のうち 97 校が東北方面で、1 校が函館に修学旅行に行った。しかし、2011 年度は東日本大震災の影響により、97 校<sup>6</sup>すべてが道内に行き先を変更した。そのうちの 60 校が道東、道北方面を修学旅行先にした。

表 6 修学旅行先を東北から北海道内に変更した道内公立中学校の訪問先

実施地区	学校数	行き先
道東	94	阿寒、知床、川湯（32 校） 阿寒、知床、網走／釧路（10 校） 阿寒、知床、十勝（17 校） 阿寒、知床、層雲峡／温根湯（19 校） 阿寒、十勝、層雲峡・温根湯（11 校） 十勝（5 校）
道北	22	旭川、道央（ニセコ・札幌）（19 校） 旭川・富良野（3 校）
道南	60	函館・湯の川、大沼、洞爺／ルスツ（9 校） 函館・湯の川、洞爺、ニセコ／赤井川（9 校） 函館・湯の川、大沼、松前（4 校） 函館・湯の川、大沼、胆振（3 校） 函館・湯の川、道央（ルスツ・ニセコ・札幌）（17 校） 函館・湯の川、奥尻（1 校） 函館・湯の川（17 校）
道央	35	札幌・定山溪（15 校） 札幌、ルスツ・ニセコ・登別・洞爺（18 校） ルスツ（2 校）
計	211	

出所：「H23 年修学旅行終了後のアンケート調査結果のご報告」  
（社）北海道観光振興機構、平成 23 年 8 月より作成。

### 1-3 北方領土隣接地域への修学旅行実施校の傾向

#### 1-3-1 北方領土隣接自治体への訪問校数

##### (1) 全体数

北方領土隣接地域の自治体からの提供資料によれば、2008 年度から 2011 年度に北方領土隣接地域を訪問した学校数は 34 校、のべ訪問回数は 55 回である。道内の私立中学校及び公立高等学校は、共に訪問実績がない。他方で道外の高等学校では、私立・公立の訪問数がほぼ同数となっている。2010 年度では 17 校が訪問し、その内訳は道内の高等学校が 1

（14.7%）、2 位・大阪府 81 件（9.1%）、3 位・岡山県 80 件（9.0%）となっている。

<sup>6</sup> 学校統合により 2011 年度の学校数は 97 校となっている。

校、道外の中学校が3校、道外の高等学校が13校であった。

表7 北方領土隣接地域の自治体を訪れた学校数

			2008年度		2009年度		2010年度		(2011年度※)		合計	
道内	中学校	公立	0	0	0	0	0	0	3	3	3	3
		私立		0		0		0		0		0
	高校	公立	1	1	1	1	1	1	1	1	4	4
		私立		0		0		0		0		0
道外	中学校	公立	1	1	3	1	3	1	2	1	9	4
		私立		0		2		2		1		5
	高校	公立	6	4	15	9	13	5	5	1	39	19
		私立		2		6		8		4		20
合計			8		19		17		11		55	

出所：1市4町提供の資料を元に作成。※予定含む

(2) 都道府県別

北方領土隣接地域への訪問校34校を所在地域・都道府県別に見ると表8のとおりである。34校の所在地は、関東地方が15校、近畿地方が11校、北海道が4校、中部・四国・九州地方が各1校である。都道府県別では、多い順に東京都と神奈川県が5校、大阪府が4校、北海道が4校である。さらに中学・高校、公立・私立の分類でみると、公立では大阪府の高校が4校と最多、神奈川県の高校、北海道の中学が3校で続く。私立では、東京都の高校が4校、神奈川県の高校が3校と突出している。

表8 北方領土隣接地域の自治体を訪れた学校2008年～2011年（都道府県別内訳）

	都道府県	総数	中学校	公立	私立	高校	公立	私立
	北海道	4	3	3		1	1	
関東	茨城県	1				1	1	
	埼玉県	1				1		1
	千葉県	1				1		1
	東京都	6	2		2	4		4
	神奈川県	6				6	3	3
中部	静岡県	1	1	1				
	愛知県	1				1		1
近畿	三重県	1				1		1
	滋賀県	2				2	2	
	京都府	2				2	1	1
	大阪府	5				5	4	1
	奈良県	1				1	1	
四国	香川県	1				1	1	
九州	福岡県	1				1	1	
	合計	34	6	4	2	28	15	13

出所：1市4町提供の資料を元に作成。

### (3) 訪問回数別

北方領土隣接地域訪問校 34 校を訪問回数別に見ると表 9 のとおりである。中学校では、6 校のうち道外の 3 校が北方領土隣接地域を継続して訪れている。他方で道内の公立中学 3 校は、東日本大震災という特殊事情のあった 2011 年度に実施したが、2012 年度以降継続するかは不明である。高等学校では、28 校のうち 9 校が継続訪問している一方、単年度のみの実施校も 19 校あった。

表 9 北方領土隣接地域の自治体を訪れた学校数（訪問回数別）

			1回	2回	3回	4回	総数
道内	中学校	公立	3				3
		私立					
	高校	公立				1	1
		私立					
道外	中学校	公立				1	1
		私立		1	1		2
	高校	公立	8	4	1		13
		私立	11	1	1	1	14
合計			22	6	3	3	34

出所：1市4町提供の資料を元に作成。

表 10 北方領土隣接地域の自治体を訪れた学校数（訪問回数別の内訳）

#### 【中学校】

学校名	公／私	所在地	訪問回数	年度別訪問実績			
				2008年	2009年	2010年	2011年
静岡県 AA 中学校	公	静岡県	4	○	○	○	○
東京都私立 AA 中学校	私	東京都	3		○	○	○
東京都私立 BB 中学校	私	東京都	2		○	○	
北海道 AA 中学校	公	北海道	1				○
北海道 BB 中学校	公	北海道	1				○
北海道 CC 中学校	公	北海道	1				○

#### 【高等学校】

学校名	公／私	所在地	訪問回数	年度別訪問実績			
				2008年	2009年	2010年	2011年
北海道 AA 高等学校	公	北海道	4	○	○	○	○
三重県私立 AA 高等学校	私	三重県	4	○	○	○	○
神奈川県私立 AA 高等学校	私	神奈川県	3	○	○	○	
神奈川県立 AA 高等学校	公	神奈川県	3		○	○	○
滋賀県立 AA 高等学校	公	滋賀県	2		○	○	
京都府立 AA 高等学校	公	京都府	2		○	○	
京都私立 AA 高等学校	私	京都府	2		○	○	
大阪府 AA 高等学校	私	大阪府	2		○		○

大阪府立 AA 高等学校	公	大阪府	2		○		○
茨城県立 AA 高等学校	公	茨城県	1			○	
埼玉県私立 AA 高等学校	私	埼玉県	1			○	
千葉県私立 AA 高等学校	私	千葉県	1		○		
東京都私立 AA 高等学校	私	東京都	1			○	
東京都私立 BB 高等学校	私	東京都	1				○
東京都私立 CC 高等学校	私	東京都	1		○		
東京都私立 DD 高等学校	私	東京都	1	○			
神奈川県私立 BB 高等学校	私	神奈川県	1			○	
神奈川県私立 CC 高等学校	私	神奈川県	1			○	
神奈川県立 BB 高等学校	公	神奈川県	1		○		
神奈川県立 CC 高等学校	公	神奈川県	1		○		
愛知県 AA 高等学校	私	愛知県	1			○	
滋賀県立 BB 高等学校	公	滋賀県	1		○		
大阪府立 BB 高等学校	公	大阪府	1			○	
大阪府立 CC 高等学校	公	大阪府	1		○		
大阪府立 DD 高等学校	公	大阪府	1		○		
奈良県立 AA 高等学校	公	奈良県	1	○			
香川県立 AA 高等学校	公	香川県	1	○			
福岡県立 AA 高等学校	公	福岡県	1	○			

出所：1市4町提供の資料を元に作成。

#### (4) 訪問自治体別

2009年度と2010年度の自治体別の訪問地は表11のとおりである。自治体別に訪問した学校数をみると標津町への訪問が多く、次いで根室市となる。2009年度は標津町へは12校、根室市へは9校が訪れている。2010年度は標津町へは14校、根室市へは6校となっている。

表11 自治体別の訪問学校数（2009年度）

			根室市	別海町	標津町	中標津町	羅臼町
道内	中学校	公立	0	0	0	0	0
		私立	0	0	0	0	0
	高校	公立	1	0	0	0	0
		私立	0	0	0	0	0
道外	中学校	公立	1	0	1	0	1
		私立	0	0	2	0	0
	高校	公立	3	2	8	2	1
		私立	4	2	1	2	1
合計			9	4	12	4	3

出所：1市4町提供の資料を元に作成。



表 12 自治体別の訪問学校数（2010 年度）

			根室市	別海町	標津町	中標津町	羅臼町
道内	中学校	公立	0	0	0	0	0
		私立	0	0	0	0	0
	高校	公立	1	0	0	0	0
		私立	0	0	0	0	0
道外	中学校	公立	1	1	1	0	1
		私立	0	0	2	0	0
	高校	公立	2	1	5	1	2
		私立	2	1	6	1	1
合計			6	3	14	2	4

出所：1 市 4 町提供の資料を元に作成。

### 1-3-2 修学旅行等の実施時期

中学校では、3 年次の 5 月～7 月に実施されることが多い。高等学校では、2 年次の 5 月～10 月の実施が大半を占めているが、中でも 9 月と 10 月が多い。3 月にスノーシューやスノーモービルなどの体験学習を実施している関西圏の私立高校もある。

表 13 北方領土隣接地域への修学旅行の実施時期

月	学校数	うち中学校	うち高校
4 月			
5 月	4	1	2
6 月	7	3	4
7 月	3	1	3
8 月	1		1
9 月	10		10
10 月	8	1	7
11 月			
12 月			
1 月			
2 月			
3 月	1		1
計	34	6	28

出所：1 市 4 町提供の資料を元に作成。



### 1-3-3 利用空港

訪問時に利用した空港が把握できた16件の発着空港を表15に記した<sup>7</sup>。女満別空港から道内へ入った件数は9件、女満別空港から道外へ出た件数は6件となっている。中標津空港を利用して道内へ入った件数は1件で、中標津空港から道外へ出た件数は3件である。また中標津空港の利用校は、東京都の私立中学校（120名参加）を除き、旅行参加者が60名以下という小規模な学校に限られている。

表14 隣接地域を訪れた学校が利用した空港等

#### ①【イン時】

発	着	件数	
羽田	→ 女満別	3	9
中部国際	→	2	
中部国際 → 新千歳	→	1	
伊丹	→	1	
伊丹 → 羽田	→	1	
関西	→	1	
不明（京都）	→ 中標津	1	1
羽田	→ 釧路	1	1
関西	→ とかち帯広	1	1
羽田	→ 新千歳	1	3
伊丹空港	→	1	
不明（大阪）	→	1	
羽田	→ 旭川	1	1
計		16	

#### ②【アウト時】

発	着	件数	
女満別	→ 羽田	1	6
	→ 中部国際	1	
	→ 伊丹	1	
	→ 羽田→伊丹	1	
	→ 関西	1	
	→ 不明（学校所在地：大阪）	1	
中標津	→ 羽田	1	3
	→ 伊丹（経由地不明）	1	
	→ 羽田→伊丹	1	
釧路	→ 羽田	2	2
新千歳	→ 中部国際	2	2
函館	→ 羽田	1	1
小樽港	→ 舞鶴港 （フェリー利用）	1	1
不明（最終宿泊地：弟子屈）	不明（学校所在地：千葉）	1	1
計		16	

<sup>7</sup> 札幌市の公立中学校では飛行機の利用ができないため移動手段はJRを利用している。今回の行程では新札幌駅と釧路駅間についてJRを利用していた。

③【イン時とアウト時の空港等の利用】

イン	アウト	件数
女満別空港	女満別空港	2
	中標津空港	2
	釧路空港	1
	新千歳空港	1
	函館空港	1
	小樽港	1
中標津空港	女満別空港	1
釧路空港	女満別空港	1
とち帯広空港	女満別空港	1
新千歳空港	女満別空港	1
	中標津空港	1
	不明	1
新千歳空港－女満別空港	新千歳空港	1
旭川空港	釧路空港	1
計		16

出所：1市4町提供の資料を元に作成。

1-3-4 受入人数・宿泊の状況

北方領土隣接地域への訪問を含む修学旅行の宿泊日数は、中学校の場合は3泊4日、高等学校の場合は3泊4日又は4泊5日の行程が主流である。北方領土隣接地域へ宿泊せず訪問した学校もある。

表 15 北方領土隣接地域を含む修学旅行の宿泊日数

泊数	学校数	うち中学校	うち高校
宿泊せず	1		1
1泊2日	1		1
2泊3日	2	1	1
3泊4日	15	4	11
4泊5日	9	1	8
5泊6日	2		2
不明	4		4
計	34	6	28

出所：1市4町提供の資料を元に作成

この34校のうち、北方領土隣接地域に宿泊した学校は15校である。宿泊日数別にみると、8校が1泊、6校が2泊だったが、4泊した学校も1校あった。

北方領土隣接地域内の宿泊先としては、標津町が12校と最多であり、学級単位、男女別などに分かれて町内の民宿や農家の民家へ分泊する事例が多い。標津町において2泊以上の滞在の場合は、漁業体験や酪農体験などの体験学習を組み入れている。ファームステイを組み入れている学校や夕食時に地域住民の方との交流の場（ちゃんちゃん焼き体験、和太鼓演奏など）を設けているプログラムもある。他方で、根室市・別海町での宿泊実績はない。

北方領土隣接地域以外の宿泊先としては、知床ウトロ温泉、屈斜路湖畔、阿寒湖温泉な

どの宿泊がみられる。

表 16 北方領土隣接地域への宿泊状況（市町別内訳）

	1泊	2泊	4泊	計
根室市	0	0	0	0
別海町	0	0	0	0
中標津町	1	0	1	2
標津町	6	6	0	12
羅臼町	1	0	0	1
計	8	6	1	15

出所：1市4町提供の資料を元に作成。

また、北方領土隣接地域に宿泊した学校 15 校を旅行参加者数で分類すると、100 名以下の学校が 12 校、100 名以上の学校が 3 校であった。266 名が、標津町の民宿に分泊した高校が 1 校あったが、それ以外では大規模な人数で宿泊した事例はなかった。

表 17 北方領土隣接地域への宿泊状況

人数	学校数	うち宿泊校数	1泊	2泊	4泊	備考
20～	1	1	1			
30～	5	5	1	3	1	
40～	2	0				
50～	3	2	2			
60～	1	1	1			
70～	2	0				
80～	3	1	1			
90～	2	2	1	1		
100～	5	2		2		
150～	4	0				
200～	4	1	1			266名（分泊）
300～	1	0				320名
400～	1	0				
計	34	15	8	6	1	

出所：1市4町提供の資料を元に作成。

### 1-3-5 1市4町における見学先、体験学習内容

実際の修学旅行の見学先としては、根室市では、納沙布岬・北方館（5件）、洋上視察（5件）、北方四島交流センター（1件）等、北方領土学習関係が大半を占めている。元島民の講話は、根室市（8件）を中心に、別海町（2件）、標津町（1件）でも実施されている。別海町ではトドワラ（9件）、根付半島ネイチャーセンター（5件）、標津町ではサーモン科学館（6件）が人気である。

他方で体験学習については、鮭学習(8件)、いくら作り(5件)、溪流釣り(5件)、地域住民との交流会(鮭ちゃんちゃん焼き、和太鼓演奏等)(4件)、酪農体験(4件)、波止場釣り(3件)等、ほとんどが標津町で実施されている。

【施設見学・講話等】※( )内は見学を訪れた件数

根室市	元島民の講話(8)、納沙布岬・北方館(5)、洋上視察(5)、北方四島交流センター(1)、春国岱原生野鳥公園ネイチャーセンター(1)等
別海町	トドワラ(9)、野付半島ネイチャーセンター(5)、別海観光船乗船(元島民の講話)(2)
中標津町	開陽台(2)、雪印中標津工場(1)、
標津町	サーモン科学館(6)、アザラシウォッチング(2)、元島民の講話(1)、国後展望閣(1)
羅臼町	羅臼港見学(せり、コンブ倉庫見学)(1)、羅臼ビジターセンター(1)等

【体験学習】※( )内は体験学習を実施した件数

根室市	漁業体験(サンマ蒲焼丼・あら汁棟の料理体験、漁港見学(花咲港ほか))(1)
別海町	酪農体験
中標津町	標津岳登山(シマフクロウ)(1)、酪農体験
標津町	鮭学習(8)、いくら作り(5)、溪流釣り(5)、地域住民との交流会(鮭ちゃんちゃん焼き、和太鼓演奏等)(4)、酪農体験(4)、波止場釣り(3)
羅臼町	羅臼深層館(ほっけ“つみれ汁”調理体験)(1)

北方四島センター



羅臼ビジターセンター



放牧風景(別海～中標津)



洋上視察



### 1-3-6 コースの概要

訪問 34 校（計 55 件）の修学旅行等の行程については、大きく『(1)1 市 4 町内で宿泊を伴う場合』、『(2)1 市 4 町内で宿泊を伴わない場合』の 2 つに分けることができる。宿泊を伴う場合は、①標津町、②中標津町、③羅臼町で宿泊する事例がある。

宿泊を伴わない場合は、④北方領土学習を中心に、根室市とその他の隣接地域を広域に訪問、⑤北方領土学習を中心に根室市を訪問、⑥中標津町・標津町・別海町の隣接地域中部訪問、⑦羅臼町・標津町の隣接地域北部訪問のパターンに分類できる。コース分類毎の訪問件数、及び主な訪問先は表 18 のとおり。

表 18 隣接地域への訪問パターン例<sup>8</sup>

区分	分類	件数	主な訪問先
(1) 宿泊を伴う場合	① 標津町泊コース	9	標津町での農業・漁業体験、野付半島、開陽台
	② 中標津町泊コース	2	開陽台、雪印中標津工場；サーモン科学館
	③ 羅臼町泊コース	1	羅臼漁協施設、羅臼ビジターセンター
(2) 宿泊を伴わない場合	④ 北方領土学習コース (根室市+その他の隣接地域)	4	納沙布岬、北方館、洋上視察、北方四島交流センター、スワン 44 ねむろ、野付半島、国後展望閣、知床峠等
	⑤ 北方領土学習コース (根室市)	6	納沙布岬、北方館、洋上視察、北方四島交流センター、スワン 44 ねむろ
	⑥ 隣接地域中部コース (中標津町・標津町・別海町)	4	開陽台、雪印中標津工場、野付半島、北方領土館、サーモン科学館
	⑦ 隣接地域北部コース (標津町・羅臼町) 中心	5	野付半島、国後展望塔；知床峠・羅臼岳、羅臼深層館

<sup>8</sup> 訪問校 34 校（55 件）のうち詳細な行程が明らかなものについて訪問パターン例を記す。

## 1-4 修学旅行の行程パターン

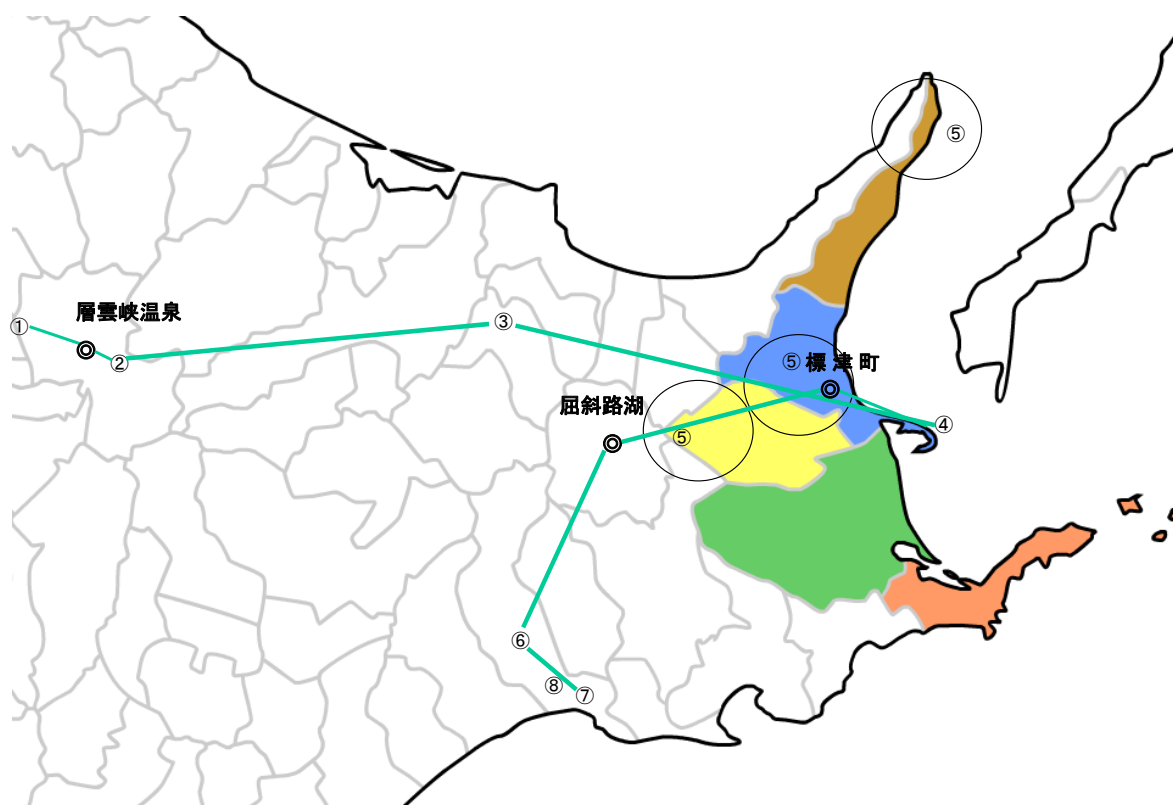
### 1-4-1 宿泊を伴う場合

#### (1) 標津町泊コース

標津町に滞在して「農業体験／漁業体験」を行うとともに「野付半島」や「開陽台」等の標津町周辺にある施設への見学を組み合わせながら北方領土隣接地域への訪問を行うパターンである。訪問先は標津町内あるいは中標津町が中心となる。

【実際のコース例】＜実施校：高等学校（関東圏）＞ 3泊4日

- 1日目：羽田空港－旭川空港－旭山動物園 (①)－層雲峡温泉泊
- 2日目：層雲峡－銀河流星の滝 (②)－北見・美幌付近 (昼食) (③)－野付半島 (北方領土) (④)－標津町泊 (⑥)
- 3日目：標津－自然体験 (標津方面／知床方面／屈斜路湖方面) (⑤)－屈斜路湖泊
- 4日目：屈斜路湖－釧路湿原体験 (⑥)－釧路市場 (⑦)－釧路空港 (⑧)－羽田空港

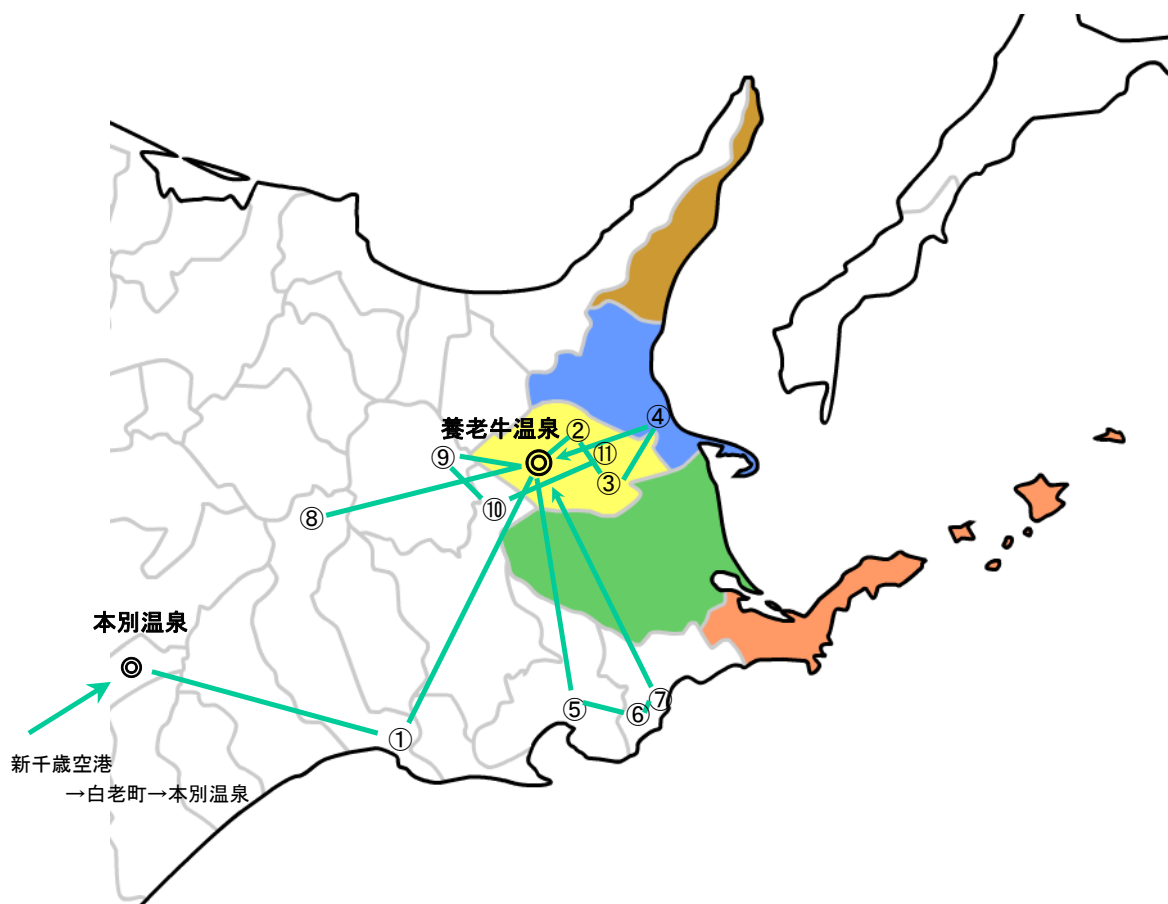


## (2) 中標津町泊コース

中標津町（養老牛温泉）に宿泊し、そこを起点として中標津町にある「開陽台」や「雪印中標津工場」の見学、標津町にある「サーモン科学館」や「北方館」等の施設の見学、体験学習を行うパターンである。標津岳登山を実施している例もあった。標津町泊と同様に訪問先は中標津町内あるいは標津町となる。

### 【実際のコース例】＜実施校：高等学校（関西圏）＞ 5泊6日

- 1日目：伊丹空港－新千歳空港－白老ポロトコタン－本別温泉泊
- 2日目：釧路コース（釧路港視察）(①)－中標津町・養老牛温泉泊
- 3日目：中標津コース（開陽台 (②)）－雪印中標津工場見学 (③)－サーモン科学館 (④)
- 4日目：霧多布コース（厚岸 (⑤)）－琵琶瀬展望台 (⑥)－霧多布岬 (⑦)
- 5日目：阿寒コース (⑧)
- 6日目：養老牛温泉－裏摩周展望台 (⑨)－多和平 (⑩)－中標津空港 (⑪)－伊丹空港



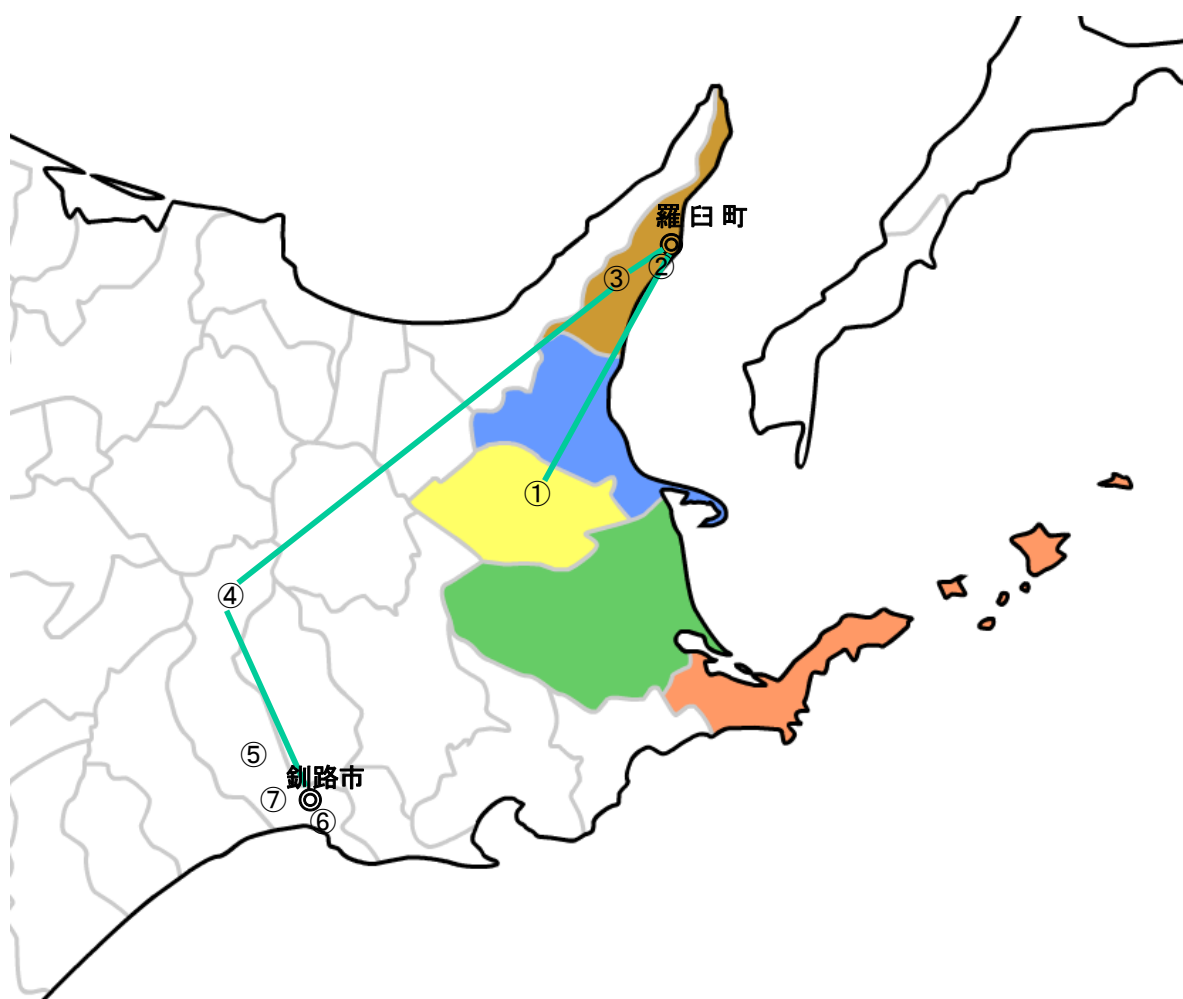


### (3) 羅臼町泊コース

羅臼町に宿泊して「羅臼町漁協施設」の早朝見学や「羅臼ビジターセンター」の見学など羅臼町を中心に訪問を行うパターンである。羅臼町の宿泊は民宿での分泊となる。

【実際のコース例】＜実施校：中学校（北海道内）＞ 2泊3日

- 1日：新千歳空港－中標津空港（①）－羅臼泊
- 2日：羅臼漁協施設（②）－羅臼ビジターセンター見学（③）－阿寒湖（④）－釧路泊
- 3日：阿寒国際鶴センター見学（⑤）－釧路市内自主学習（⑥）－釧路空港（⑦）－新千歳空港



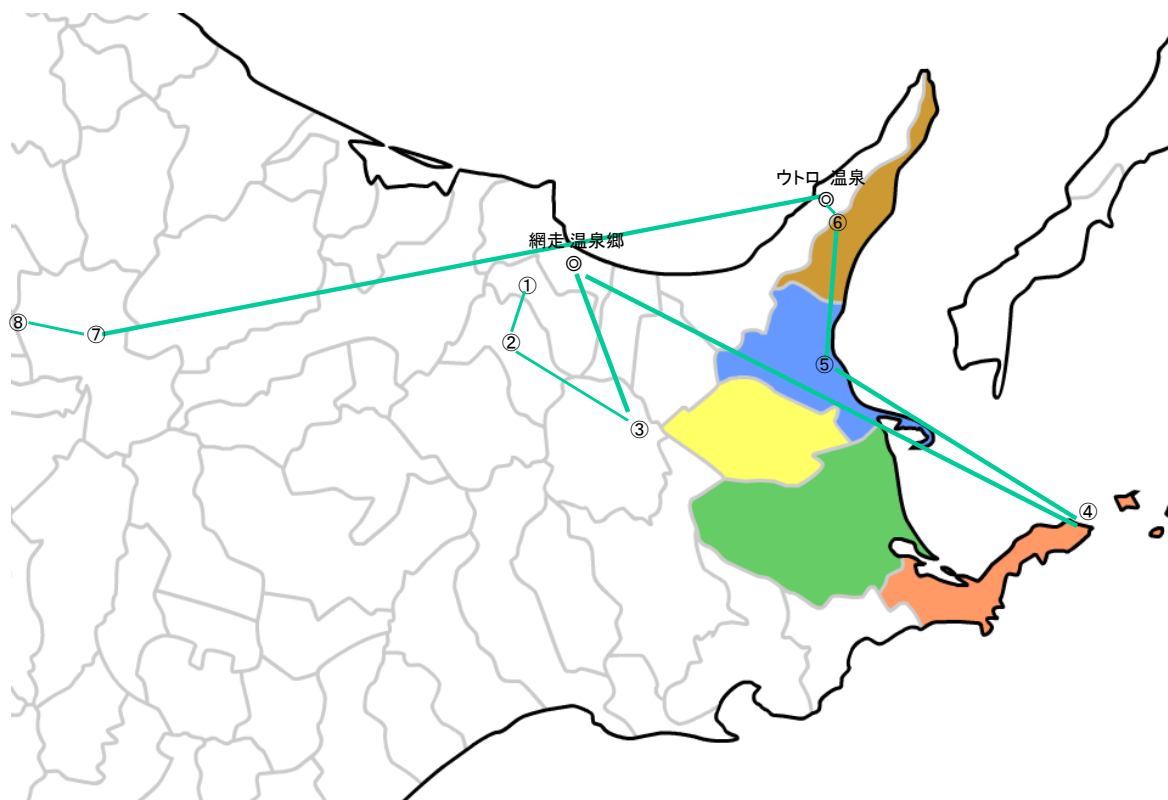
## 1-4-2 宿泊を伴わない場合

### (1) 北方領土学習コース（根室市＋その他の隣接地域）

北方領土学習を中心に行程が組み立てられ、「納沙布岬」のある根室市とその他の隣接地域を訪問するパターンである。「納沙布岬」において北方4島を間近に概観し、「北方館」や「北方四島交流センター」あるいは「洋上視察」において元島民の講話を聞くなどといった北方領土学習を実施する。同時に、「野付半島」や「サーモン科学館」、「国後展望閣」、「知床峠」などの根室市以外の隣接地域での施設等の見学と組み合わせて行われる。

#### 【実際のコース例】＜実施校：高等学校（中部圏・私立）＞ 4泊5日

- 1日目：中部国際空港－新千歳空港－女満別空港（①）－美幌峠（②）－摩周湖（③）－網走温泉郷泊
- 2日目：納沙布岬（④）－国後展望閣（⑤）－知床峠（⑥）－ウトロ温泉泊
- 3日目：葉菜野花小清水（道の駅）－おんねゆ温泉（道の駅）－層雲峡（⑦）－旭山動物園（⑧）－美瑛・白金温泉泊
- 4日目：小樽市内自由活动－キリンビール園（夕食）－藻岩山－札幌市内泊
- 5日目：北海道神宮－新千歳空港－中部国際空港

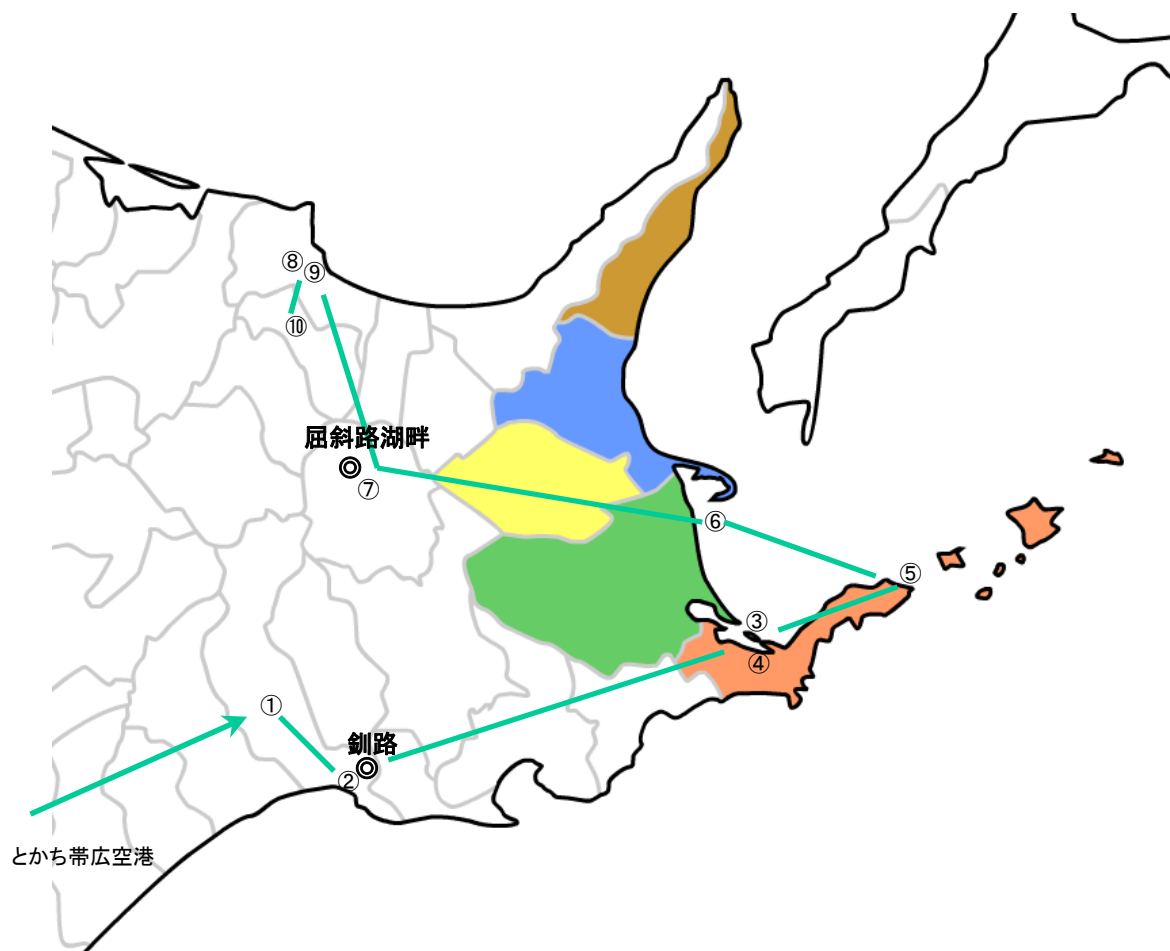


## (2) 北方領土学習コース（根室市）

北方領土学習を中心に行程が組み、根室市のみを訪問するパターンである。根室市周辺の見学の前後にその他の隣接地域は訪問せず、周辺地域へと抜けていく場合が多い。但し、洋上視察を尾岱沼港（別海町）から発着する観光船によって実施する場合がある。

### 【実際のコース例】＜実施校：高等学校（関西圏）＞ 2泊3日

- 1日目：関西空港－とちか帯広空港－釧路湿原展望台（①）－釧路フィッシャーマンズワーフ（②）－釧路泊
- 2日目：春国岱（③）－スワン44ねむろ（④）－納沙布岬（⑤）－尾岱沼港（観光船）（⑥）－屈斜路湖畔泊
- 3日目：屈斜路湖周辺（体験学習）（⑦）－網走監獄（⑧）－網走海鮮市場（⑨）－女満別空港（⑩）－関西空港

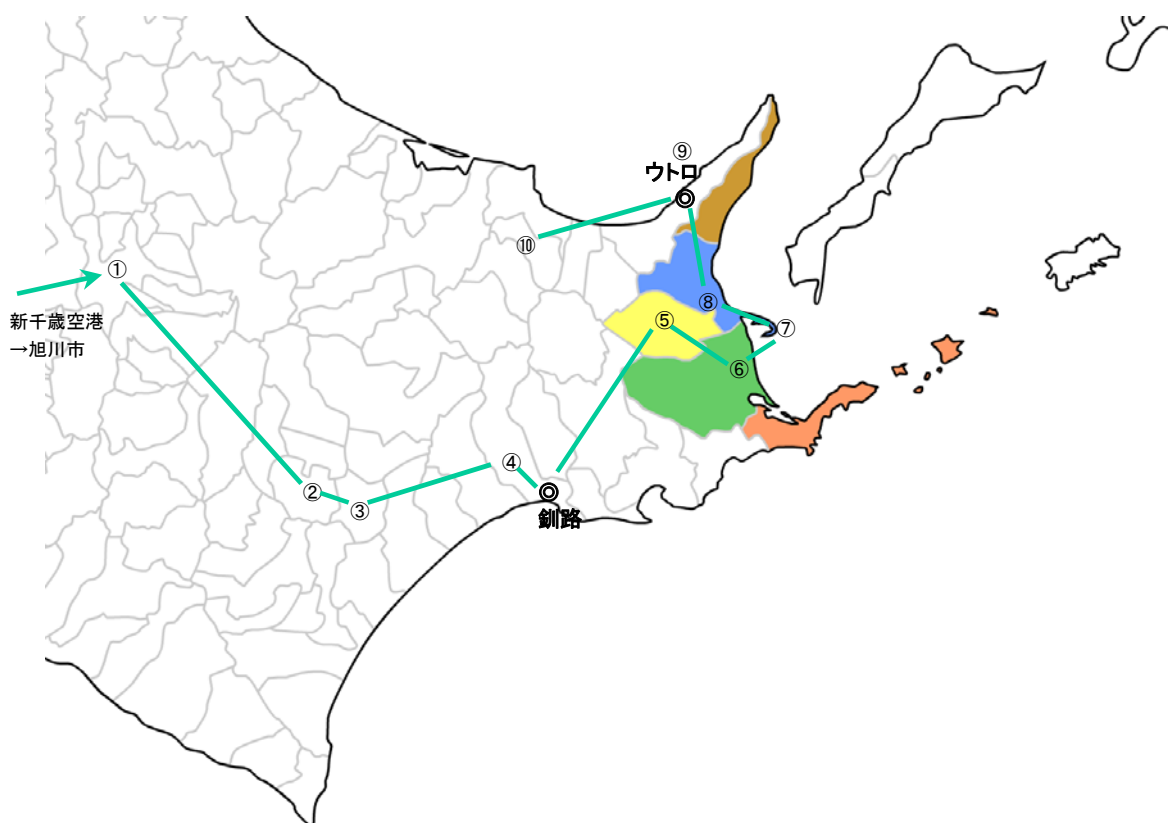


### (3) 北方領土隣接地域中部コース（中標津町・標津町・別海町）

1市4町以外の周辺地域に宿泊し、北方領土隣接地域にある施設の見学や景観を眺望するパターンで、根室市を訪問せずに中標津町・標津町・別海町を中心として釧路・阿寒方面と知床・網走方面を結ぶコースである。中標津町の「開陽台」、標津町の「北方領土館」、「サーモン科学館」、別海町の「野付半島」などを日帰りで訪問している。

#### 【実際のコース例】＜実施校：高等学校（関西圏）＞ 3泊4日

- 1日目：新千歳空港－旭川観光（旭山動物園）（①）－富良野泊
- 2日目：ボーヤファーム（シープドッグ体験）（②）－十勝川温泉（③）－温根内釧路湿原（④）－釧路泊
- 3日目：開陽台展望台（⑤）－尾岱沼・トドワラ（アザラシウォッチング）（⑥）－野付ネイチャーセンター（北方領土学習）（⑦）－標津サーモンパーク（⑧）－ウトロ泊
- 4日目：知床ネイチャープログラム－知床観光汽船・知床五湖（⑨）－女満別空港（⑩）

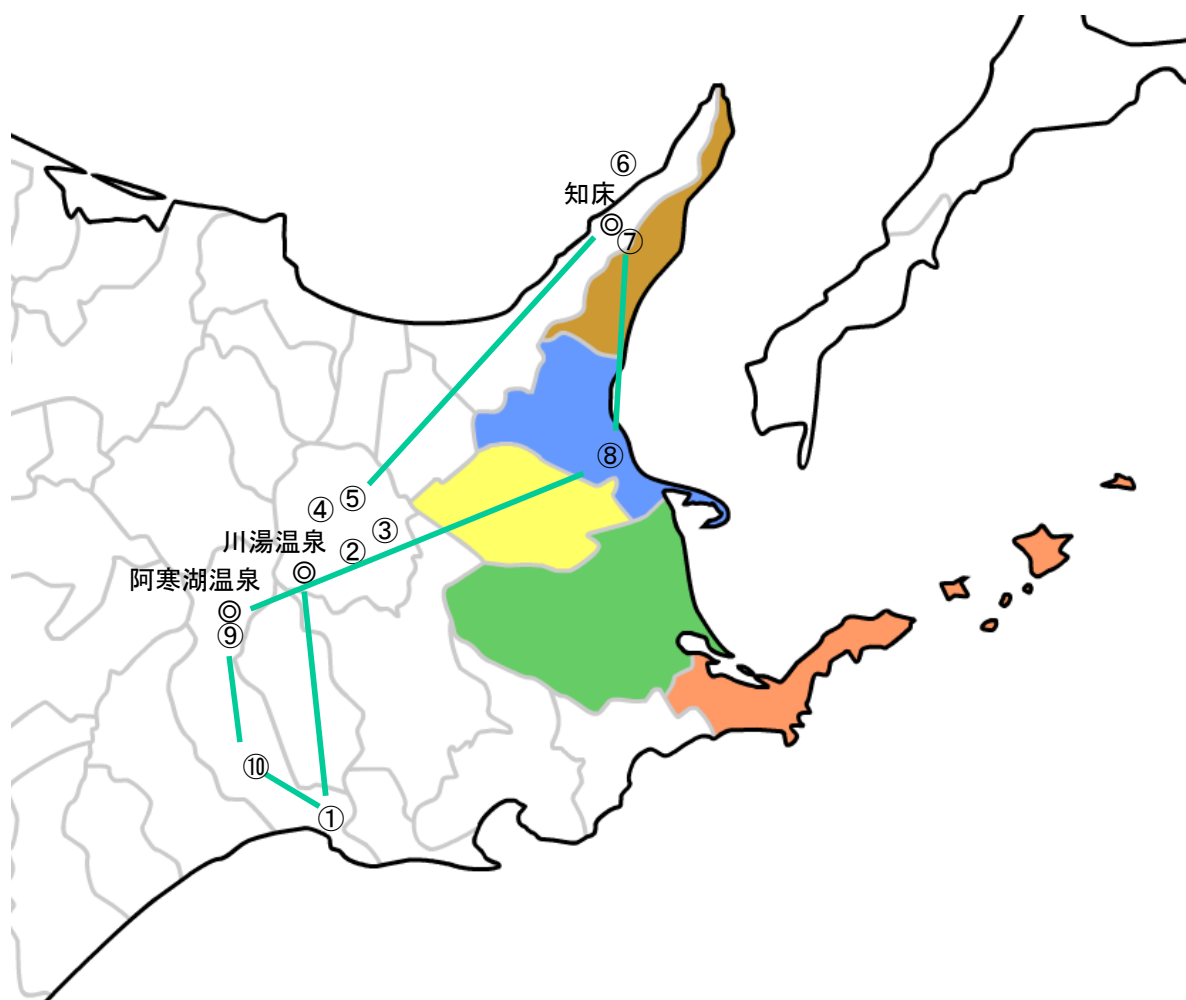


#### (4) 北方領土隣接地域北部コース（羅臼町・標津町中心）

周辺地域で宿泊をし、北方領土隣接地域のうち標津町と羅臼町を中心に訪問するパターンである。斜里方面から入る際あるいは出る際に知床峠を越えて羅臼町を経由し、標津町にある「国後展望閣」や「野付半島」などを見学するコースとなっていた。

#### 【実際のコース例】＜実施校：札幌市内中学校＞ 3泊4日

- 1日目：新札幌駅－釧路駅(①)－川湯温泉泊
- 2日目：渡辺体験牧場(②)－摩周湖(③)－屈斜路湖砂湯(④)－硫黄山(⑤)－知床泊
- 3日目：知床観光船(⑥)－知床峠(国後島眺望)(⑦)－標津町(北方領土学習・元島民講話、北方領土館、サーモン科学館)(⑧)－阿寒湖温泉泊
- 4日目：アイヌコタン(⑨)－丹頂鶴自然公園(⑩)－釧路駅(①)－新札幌<sup>9</sup>



<sup>9</sup> 札幌市内中学校は修学旅行時には飛行機を利用しない取り決めのため移動はJR／バス。

参考 1 : 1 市 4 町を訪れる修学旅行における 1 市 4 町以外での主要な見学先

【施設等見学先】

旭川市	旭山動物園(7)
上川町	層雲峡(4)
網走市	網走監獄(6)、オホーツク流氷館(1)、北方民族博物館(1)、芝桜公園(1)
斜里町	知床五湖散策(5)、知床世界遺産センター(4)、観光船乗船(7)
弟子屈町	屈斜路湖(砂湯)(6)、硫黄山(3)、摩周湖(7)
浜中町	霧多布湿原(3)
釧路市	阿寒湖(4)、釧路湿原散策・丹頂鶴自然公園(7)、和商市場(2)
札幌市	北海道大学・羊ヶ丘展望台等(1)

【体験学習】

屈斜路湖	ネイチャーボート・カヌー・乗馬等(2)
渡辺体験牧場(弟子屈町)	牛への給餌、乳搾り、バター作り、放牧場見学、草原散策等(4)
阿寒湖	アイヌコタン(アイヌ古式舞踊、ムック作り等)(4)
釧路川	ラフティング(2)
然別湖	アウトドアクッキング・ラフティング・カヌー・エアトリップ(1)
富良野	ジャム。バター等づくり(1)

【自主研修】

札幌市・小樽市	市内散策(3)
函館市	市内散策(1)

## 1-5 修学旅行誘致に向けた考察

1-1 から 1-4 で現状把握したように、北海道は沖縄とならび、特に高等学校の修学旅行先として競争力を持っている。しかし、その中で北方領土隣接地域を訪れた学校は少ないのが実態である。

道内の中学校も含め、北方領土隣接地域を訪れた学校の訪問先を見ると、限られた場所に集中していることが分かる。宿泊場所や費用の問題があると想定されるが、宿泊なしで長距離を移動し、短時間で施設等を訪れる例もみられた。

この要因として、北方領土隣接地域にある様々な施設や訪問地の認知度が低いことが考えられる。また、北方領土隣接地域を訪問したにも関わらず、北方領土学習を実施していない<sup>10</sup>と見受けられる行程もある。

このことから、本件調査で実施する旅行代理店向けおよび学校向けのモニターツアーにおいては、限られた時間の中で、可能な限り様々な施設等を訪問するとともに、北方領土隣接地域の 1 市 4 町のいずれの自治体においても、北方領土学習の場や機会（元島民の講話の派遣/実施など）があることを伝えることが重要となると考える。

---

<sup>10</sup> 明示的に学校の行程に記載されていないだけであり、実際には北方領土学習を実施している可能性はある